

西日本新聞

発行所
西日本新聞社
福岡市中央区天神1丁目
4番1号(〒810-8721)
©西日本新聞社 2011年

4月10日
(日曜日)

ため池 散歩

水辺の人々

— 11 —



ビオトープ 自由ヶ丘

なりとみ 成富 まさる 勝さん (54) = 八幡西区自由ヶ丘



ビオトープの池の端に干潟をつくり、シバナを育てる成富教授

サギやカワセミも飛来
ビオトープ自由ヶ丘は生きものが生息し、人間が楽しめる空間を目指し2004年、成富教授が中心となって九州共立大学の敷地内にあるぼた山などの4千㍍の遊休地に遊歩道などを整備。06年には池と田んぼを造った。田んぼには冬場も水を張り、昆虫や魚などの生息空間として管理。絶滅が危ぶまれる貴重な植物や生物の保護・繁殖に力を注いでいる。

現在カエルや魚を餌とするサギやカワセミなど珍しい野鳥が飛来するほか、タヌキ、キジなども生息。敷地内には風力、太陽光ハイブリッド型発電システムが設置され、管理に必要な電力は、これらのクリーンエネルギーでまかなっている。

人工的な生物の生息空間
「ビオトープ自由ヶ丘」

たしてきたのが、北九州「ビオトープ自由ヶ丘」に多いため池です。しかし人工池に植え、増殖を試みています。今年は池で育った15株を現地に移植しました。干潮時は3000平方㍍ほどある干潟をせずにヘドロが堆積しました。うち20株は干潟に根付き、20~30㌢に成長行進譲を重ねている段階です。

希少な生物が命をつなぐ「ビオトープの役割を果

は、絶滅危惧種「クロメダカ」が生息しています。このビオトープが、失われようとしている貴重な命をつなぐ場になれば、走っています。

（聞き手、中嶋仁美）

シバナは川口や干潟などの塩分を含む湿地で生じたと推測されています。しかし、高度成長期を迎えて、北九州は日本を支える工業地帯として発展。干潟はほとんど埋め立てられ、洞海湾は「死の海」と呼ばれるほどに汚染されました。時代が変遷する中、数を減らしました。

2008年11月、現地部は大学敷地内に作った

会の活動の一環で、干潟を清掃していた時でした。散乱するペットボトルやカップラーメンの容器の隣に、ボツボツと群生しているのを見つけたんです。

かつてシバナは、洞海湾に

生物が命つなぐ場に

本城橋の東側にある干潟で、環境省から絶滅危惧種「シバナ」が、ひつそりと自生しています。この希少な植物を守るために、種を探取し、大学内にあるビオトープ（人工的な生物の生息空間）で増殖させて干潟に戻す活動を続けています。

シバナは川口や干潟などの塩分を含む湿地で生じたと推測されています。しかし、高度成長期を迎えて、北九州は日本を支える工業地帯として発展。干潟はほとんど埋め立てられ、洞海湾は「死の海」と呼ばれるほどに汚染されました。時代が変遷する中、数を減らしました。

会の活動の一環で、干潟を清掃していた時でした。散乱するペットボトルやカップラーメンの容器の隣に、ボツボツと群生しているのを見つけたんです。

かつてシバナは、洞海湾に